

「武庫川総合治水の推進」説明会 篠山市会場での主な当日発言

	発 言 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ● 篠山市以北の改修は1/2の暫定で実施されているが、将来は河床を掘り下げて1/30に対応するのか。三田市とのバランスを考えているのでしょうか、近くに生活するものとしては疑問を感じる。 ● 水田貯留に関して、提言書のP.28の畦畔の安全性から15cmが記述されている箇所ページに下4行目、「・・・個々の営農活動が改善されることが重要であるが・・・」と記載されているが誰が改善するのか。稲作の根腐れの補償で転作（現在四分六）が多い。丹波の黒豆、山芋、小豆等の特産品について豊岡のコウノトリのように作付補償がないと、絵に描いた餅である。9月には黒豆の花が咲くのに2日も、3日浸かるのであれば効果がでないのではないか。 ● 農地改良で95%が水田だけれど、できないので転作している。台風の際に水をためると、花が咲いているときに黒豆はパー。こういった作物をつくったら良いとの県の指導はあるのか。田んぼ＝水田ではない。 ● 農家は、稲作、転作をしながらローテーションでやっている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ● 倉谷池は老朽ため池で、県の指定を受けている。漏水で水が貯めれない。県は修理しろと言うが、水利組合では対処できない。この際、天神川水系が流域対策に入っているのであれば、対象として工事を行って欲しい。 ● 上流の水をためれば、下流の大水も助かる。ため池改修が治水対策になるので是非やって欲しい。2つの谷で降った雨は、老朽で水樋等は開けておりためれない。降った雨は、天神川へ流れていく。保水のための貯水池として一挙両得。
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 武庫川流域でダムがだめになって流域を巻き込んで、田んぼに水をためる提言になった。莫大な金を払った圃場整備は、排水をよくするために実施したものである。ところが、その田んぼは武庫川の土砂が堆積して、排水不良がおこって、浸水が生じて局部的に古市工区、油井、草野、当野等で再度田んぼの嵩上げが必要になっている。篠山地区の浸水想定区域以上に浸かっている。 ● 10年もかかるのであれば、もっと速やかにしないと1/2確率であれば災害が5回くる。非常に費用対効果の少ない公共事業のやり方ではないか。1/30の計画が50年もかかったら何にもならない。
4	<ul style="list-style-type: none"> ● 何日浸かるかわからないと、黒豆の栽培等への影響がわからない。厳密性が欲しい。 ● 100年の計で実施していると思うが、避難情報が遅れるとまずいので、起こった後でどうするのか。テレメータも防災無線もないのは問題である。地球温暖化もあるので、工事に10年も30年もかかっているのは、問題である。ラフでもよいから先の時点のシミュレーションが必要ではないか。

「武庫川総合治水の推進」説明会 篠山市会場での主な当日発言

5	<ul style="list-style-type: none"> ● 真南条川（別名、龍蔵寺川）が、武庫川の起点である。下流の水害の話ばかりであるが、もとを良くすべきである。下流の工事は、ざるに水を入れて、今度は外から紙をはるようなもの（そのつどそのつどの意）である。真南条川にダムを造るべきである。美しい川になり、水を流すことにより、堤防がしっかりする。これが美しい川の基本である。 ● 我々のため池は、土砂がたまっているが、堤防は水が流れるとしっかりするのではないか。川も同様。10年前に川が汚いとのコメントをいただいた。水量が少ないのもダムがないことが原因。もともと断っていくべきではないか。真南条のため池は、農業用水であり貯留施設がない。景観をよくするために川には水が必要。 ● 真南条川に蜚がたくさんいた。蜚の一生は一年、その間、水が必要。古市からも蜚を見に来る。だんだん蜚の生息地が上流にいて、いなくなるのではないかと危惧している。
6	<ul style="list-style-type: none"> ● 水を農地にためることは、作物に悪影響。排水溝をよくして逆に水を早く抜きたい。台風時、作物が根腐れする。今年、排水溝を改修してもらった。水がたまらなくなると作物の被害が少なくなった。たんぼ貯留は、畑作、稲作の時期（5月から9月）以外はOK。ため池も満杯だと無理。先に水を抜いて水がこないとどうするのか。農家にとっては、逆効果である。 ● 下流のことも大事だが、上流も考えて欲しい。
7	<ul style="list-style-type: none"> ● 篠山の武庫川は、流れが悪い。地形的な問題がある。掘削しているが、また、砂がたまる。ハザードマップでは、草野、南矢代周辺は水がたまりやすい。ここに、大規模な遊水地をつくって下流に水を流さない。その際は、農地補償が重要である。安くつくのではないかと思う。 ● 川に水を流さないように山を考えていくことが重要。山が荒れている。針葉樹林ではなく、広葉樹を植えていく。H.16の西宮のリバーサイドも三田市の大規模な山林の開発が災害の原因ではないか。
8	<ul style="list-style-type: none"> ● 水田は1枚1枚堰き止めるのか。もっと広いエリアで水を貯めるのか。この地域では、約20アール程度の田があるが、水は余り貯まらないと思う。 ● 伊勢湾台風では、この地域は、全て浸水した。橋も流れた。500mm前後の雨で、川のようになった。水田やため池に貯めるも、貯めないもなかった状況であった。流域対策として、本当に、そういった対策を考えることができるのか疑問に思う。
9	<ul style="list-style-type: none"> ● ご説明いただいた内容については、よく理解できる。近年、山林が荒廃したため、水が一気に流れてくる。自然環境が荒廃している。河川（小川）の日頃の維持管理についてだが、土砂が堆積し、川底が高くなっており、災害の危険性がある。今年の夏の集中豪雨でもあった。現実は何回もあったことである。そのような維持管理や対策について、考えていく必要がある。

「武庫川総合治水の推進」説明会 篠山市会場での主な当日発言

10	<ul style="list-style-type: none">● 委員会提言では、森林対策については数値化しなかったが、十分謳い込まれたと考えている。● 兵庫県は、今年度から「県民緑税」を導入し、「災害に強い森づくり」を進めている。具体には、間伐対策や土砂の抑止等を行っている。篠山の広報誌（1月号）の中に『森林便り』があり、具体的な施策（森林組合で間伐等）を示している。平成16年台風23号災害を受けて、「災害に強い森づくり」を進めることとなった。
----	---